



東白川小だより

令和5年1月16日(月) №11

令和4年度 学校評価アンケートの結果及び分析

12月に実施しました学校評価アンケートの結果を、保護者アンケートの回答と3年生以上の児童の生活アンケート、及び学校職員の自己評価と比較しながら分析いたしました。学校経営における3本の柱（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を中心に学校経営や地域連携等について、今年度、特に大切にしていたことや課題としたいこと等について、成果と課題の両面から記述してあります。様々なご意見や集計結果を真摯に受け止め、次年度に生かしていきたいと考えています。

＜表の見方＞

- ・数字は、5点を最高点とした評価得点の平均値を表しています。
- ・平均が4.25以上を**評価が高いと捉え青字**で、4.0未満を**課題と捉え赤字**で記しました。

1 学校教育目標・学校経営に関わって

(1) 学校教育目標の具現に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は教育目標具現に向けて意識的に取り組んでいる。	4.25
児童	・楽しく学校生活を送ることができていますか。	4.50
	・学校や学級をよくするためにみんなで仲良く協力して何かをやりとげ、うれしかったことはありますか。	4.68
職員	・学校教育目標具現に向けて意識的に取り組んでいる。	4.27

「学校生活は楽しい」と捉えている児童が、約9割います。自己肯定感や自己有用感の高い児童が多いことがよく分かります。「みんなで仲良く協力してやりとげうれしかった」の評価が高く、仲間とやりとげた体験がいくつかできたと感じていると思われます。本校が重点として取り組んできた「自分を出し切り 笑顔いっぱいの学校」に向けて、推進できていると考えられます。

(2) 指導の方法に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校職員は子どもたちに寄り添い、一人一人と関わるなど互いに協力し合い、一丸となって子どもたちを育てようとしている。	4.02
児童	・失敗を恐れず挑戦し、自分の力を出しきることができましたか。	4.38
	・時間を守る、正しく廊下を歩く、トイレのスリッパをそろえるなど、学校のきまりを守って生活できていますか。	4.11
職員	・児童に寄り添い、全校一人一人の児童と関わる等、教職員が協力し合い、一丸となって子どもたちを育てようとしている。	4.45

全職員が一枚岩となり、全教育活動を通して児童を育てようと指導し続けてきた成果が表れています。

今後も全職員が引き続き一枚岩となり、一人一人の子どもたちの気持ちに寄り添い、良いことは褒め、良くないことに対しては毅然とした態度で指導を徹底させていくことが大切であると考えています。

2 確かな学力に関わって

(1) 授業に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、分かりやすい授業づくりに心がけ、子どもたちに基礎的、基本的な確かな学力を身につけさせようと努力している。	4. 27
	・子どもは、授業が楽しい、分かりやすいと感じている。	4. 13
児 童	・授業の中で分かったこと、できるようになったことが増えましたか。	4. 66
	・授業は分かりやすく、楽しいですか。	4. 50
職 員	・「主体的・対話的に学び合い、自分の考えを進んで表現できる」授業を実践するために、授業の工夫・改善を図り（教材研究）、日々の授業に臨んでいる。	4. 18
	・子どもたちに基礎的、基本的な確かな学力を身に付けさせている。	4. 18

児童の評価は、とても高いです。「授業内容が分かりやすく、楽しい。」「授業を通して、分かったことやできるようになったことが増えたよ。」と捉えている児童が多いことが分かります。その反面、職員の評価はやや低いといえます。職員サイドから検証すると、少人数であることのメリットを生かした授業の工夫・改善をさらに進める必要があると捉えていると考えられます。そして、児童に確かな学力をさらに身に付けさせたいという使命と願いが表れています。今後も、職員自らが納得できる授業を目指して研鑽を積み、児童に確かな学力を身に付けさせていきます。

(2) 読書に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・子どもは、日常の読書活動を通して本の楽しさを味わっている。	3. 84
児 童	・読書は楽しいですか。また、自分から本をたくさん読むことはできましたか。	4. 14
職 員	・朝読書や日頃の読書活動を通して本の楽しさを味わわせている。	3. 73

児童は、「読書は楽しく、本をたくさん読んだ。」という視点で捉え、高い評価です。しかし、保護者や職員では、全体を通して低い評価となっており、ここにギャップが生じています。実際のところ、本当の本の楽しさを味わっている児童の姿があまり見られないのかもしれませんが。漫画を含んだ本を読んでいる児童が多いこと（活字離れ）や、ページ数が多い物語作品を避けていること、読む・読まないの個人差が大きいこと等、様々な要因が考えられます。今年度は、田口文庫や赤十字文庫の寄付があり、図書の本を増やすことができたので、本を読むことの魅力を伝えていくことができるよう取り組みたいと思います。

(3) 家庭学習に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・子どもは、進んで家庭学習に取り組む習慣を身に付けている。	3. 62
児 童	・家では宿題や自主学習など、言われなくても自分から取り組んでいますか。	4. 05
職 員	・進んで家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせている。	3. 82

確かな学力の定着のためには、家庭学習の充実是不可欠です。学校では継続して指導していますが、保護者も職員も高い評価ではありません。児童のアンケートには家庭学習時間を答える項目があり、3～6年生の平均が約48.5分となっています。問題と言えるのは、時間ではなく、「自主性（進んで）」や「質（内容）」と捉えます。ドリル学習による基礎的な学力の定着を図りながら、自主学習等による主体的な学びを進める必要があると考えます。授業の工夫・改善のみではなく、家庭学習の充実を重要な課題と捉え、取り組んでいきます。

3 豊かな心に関わって

(1) 温かい集団づくりに関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、子どもがお互いの良さを認め合える温かい集団づくりに努めている。	4.36
児童	・いじめはどんな理由があっても、やってはいけないことだと思いますか。	4.96
職員	・児童がお互いの良さを認め合える温かい集団づくりに努めている。	4.64

ほとんどの児童が、「いじめはどんな理由があっても、やってはいけない。」と捉えています。しかし、学校生活においては、仲間を傷つける言動が見られることがあります。規範意識があっても、実践することができない実態があります。今後も、お互いの良さを認め合える温かい集団づくりに努めていきます。

(2) 正しい言葉遣い・礼儀正しさに関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、挨拶や礼儀正しさ、正しい言葉遣いにこだわるとともに、子どもたちが実践できるような指導に努めている。	4.09
児童	・呼び捨てはせず、友だちとていねいな言葉や温かい言葉でやりとりができましたか。 ・自分から進んであいさつをしたり、ありがとうの言葉が言えたりしましたか。(先生・友だち・家族・地域の人)	4.36 4.70
職員	・挨拶や礼儀正しさ、正しい言葉遣いにこだわるとともに、子どもたちが実践できるように働きかけている。	4.27

挨拶や正しい言葉遣い・礼儀正しさについては、保護者の評価がやや低くなっています。児童の意識としては、挨拶はよくできている。言葉遣いも、それほど悪くなく、良いといえます。保護者の方の評価から考えると、学校の中では挨拶はできているが、地域ではあまりできていない、言葉遣いもよくないということが考えられます。正しい言葉遣いや礼儀正しさは、周りの環境の影響が大きいです。学校・家庭・地域が連携を取りながら、改善を図っていく必要があります。

4 健やかな体に関わって

(1) 遊びの楽しさや遊びを工夫する力に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、遊びの楽しさや友だちと関わって遊ぶことの楽しさを味わえるように、遊びを工夫する力をつけるように努めている。	4.18
児童	・晴れた休み時間には外へ行き、友だちと楽しく元気いっぱい遊んだり運動に取り組んだりできましたか。	4.46
職員	・進んで運動ができる子を育てるために、体育の授業やすこやかタイム、昼休みにおける運動や遊びを工夫する力をつけるように努めている。	4.09

「友だちと楽しく元気いっばいに遊んだり、運動に取り組んだりできた。」と捉えている児童が多く、評価が高いです。若手の職員を中心に、複数の学年の児童と一緒に遊べる姿も見られます。外遊びを集団づくりの一つとして大切に、仲間関係を醸成する場として位置づけた指導を心がけていきたいです。また、ボールパスラリーやなわとびなど、意図的に体を鍛える活動を位置づけ、体力の向上を図っていきます。

(2) 基本的生活習慣に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、歯科衛生、生活習慣づくりについて、計画的に取り組み、健康づくりを図る指導に努めている。	4.33
児童	・一日を元気に過ごすために、早ね・早起きをして、朝ご飯を食べたりトイレに行ったりすることができましたか。 ・テレビやゲームは時間を決めてやっていますか。	4.45 4.54
職員	・歯科衛生や生活習慣づくりについて、計画的に取り組み、健康づくりを図る指導に努めている。	3.91

新型コロナ対応ガイドラインの中で、「食育」「歯科衛生」などの取り組みを最大限行ってきた成果により、数値が改善しています。「テレビやゲームの時間」については、約束を守っている児童と守っていない児童にはっきりと分かれている実態がありました。今年度は「メディアコントロール」の取り組みを進めている成果が出て、数値が改善しています。今後も、学校と家庭が連携を取りながら、「情報モラル」に関する指導を徹底させていく必要があります。

5 その他(地域との連携、個別支援、情報発信など)

(1) 心配な児童に対する対応に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、健康面(体調不良など)で心配な児童、生活面で心配な児童、または継続的にケアが必要と思われる児童に対して保護者と連絡を取り、綿密な連携の中で指導を行うよう努めている。	4.22
	・困ったことや悩み事があったとき、学校は相談しやすく親身になって聞いてくれる。	4.16
児童	・相談や悩みなどがあるときは、先生や友だち、親に相談することができていますか。	4.43
	・学校の先生は困ったときに相談すると、しっかりと聞いてすぐに助けてくれますか。	4.84
職員	・問題行動や心配な言動、体調不良等の児童、または継続的にケアが必要と思われる児童の保護者と連絡を取り、保護者との綿密な連携のもと指導を行うよう努めている。	4.45

児童の職員に対する信頼感が高いことが結果から伝わってきます。この数値は、教員にとって大変嬉しいことですので、継続できるようにしていきたいと思います。保護者の皆様の中には、やや相談しにくいと捉えている方がいらっしゃるようです。保護者の皆様から一層信頼される学校になるために、さらに対応の仕方を考え、保護者の皆様との連携を大切にしていきたいと思います。

(2) 新型コロナウイルス感染症対応に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、コロナ禍の中、新型コロナウイルス感染症予防対策に心がけ、子どもたちの安心・安全を守るために努めている。	4.33

普段の学校生活では、朝の健康チェックから始まり、校舎内の消毒、手洗い・マスク着用の指導、給食のとり方や配膳、学習や様々な活動における3密を回避する工夫などに取り組んできました。運動会や全校登山などの学校行事では、競技の方法や整列の仕方、時間差を付けるなどに取り組んできました。子どもたちの安心・安全を守るために取り組んできた成果を評価していただき、とてもうれしく感じております。今後も、子どもたちのために力を注いでいきます。

(3) 学校からの情報発信に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、「学校だより」「学級通信」「HP」「CATV」等によって、学校、学級の様子を分かりやすく伝えている。	4.24
職員	・「学校だより」「学級通信」「HP」によって、学校、学級の様子を分かりやすく伝えている。	4.45

情報発信については、おおむね良好な評価をいただいています。今後、さらに情報発信の内容や方法を工夫し、子どもたちの様子を分かりやすく伝えていくことに心がけていきます。

<全体を通して>

- 本校の児童は、学校生活を楽しんでいると感じ、やりきった体験ができたと感じていると思われます。自己肯定感や自己有用感が高い児童が多いです。これは、学校・家庭・地域が協力し合い、一丸となって子どもたちを大切に、育ててきた成果です。
- 全体的に、平均評価値が高いです。学校の教育活動に対して、保護者の皆様が理解を示し、常に協力的で支えていただいている表れであると感じております。

- 挨拶や言葉遣い、読書活動や家庭学習の指導の充実がより一層求められています。学校内だけでの取り組みでは十分な成果が得られにくいものでもあるので、学校・家庭・地域がより密に連携して取り組んでいく必要があると考えられます。